

令和2年度第1回 日本一の健康長寿県構想嶺北地域推進協議会

<日時> 令和3年1月22日(金) 18:30~20:00

<場所> 土佐町保健福祉センター あじさいホール

<出席者> (嶺北地域推進協議会委員)

会長: 古賀真紀子、副会長: 上村明弘

委員: 佐野正幸、川井利香、吉村典子、山首尚子、川村龍象、尾澤逸子、神野理江、筒井京野、中平真司、中西一洋、公文理賀、西村佳子、岡崎美佐、矢野信子、北村和喜、武内由佳
(地域医療構想調整会議委員) 上廣俊行

県関係者: 医療政策課 課長補佐 宮地洋雄、チーフ(地域医療担当) 濱田文晴、主幹 山川哲司
事務局: (中央東福祉保健所) 所長 武田良二、保健監 田上豊資、地域包括ケア推進企画監 谷脇淑代、次長兼健康障害課長 酒井美枝、衛生環境課長 萩野義孝、地域支援室長 尾木朝子、チーフ(地域支援担当) 窪田純子、チーフ(地域連携担当) 坂田美紀、主事 門田ひな

1 開会

挨拶(中央東福祉保健所長)

2 報告事項(各部会・団体報告)

(1) 第4期日本一の健康長寿県構想の概要

(中央東福祉保健所 次長兼健康障害課長 酒井)

(2) 災害医療対策中央東地域会議 資料1

(中央東福祉保健所 衛生環境課長 萩野)

(3) 人材確保育成検討会 資料2

(中央東福祉保健所 地域支援室長 尾木)

3 説明・協議事項

(1) 高知県地域医療構想(中央区域物部川部会)に関する事項 資料3

(高知県医療政策課 主幹 山川)

(議事録は高知県医療政策課 HP 公開予定)

(2) 日本一の健康長寿県構想嶺北地域推進協議会に関する事項

ア 嶺北地域在宅医療・介護連携事業での取り組みについて 資料4

(大豊町住民課長)

(会長)

どうもありがとうございました。今期、嶺北においては、力強いコーディネーターの方が配属されて、非常にこの事業が進んでいった経緯があり、それによって住民の皆さんの反応というのが、

回を重ねるごとに参加者が多くなり、本当に反響があって、こういうことは今まで全然できなかったことで素晴らしいことだと思っております。

他の町村でも何かご説明や報告がございましたら、質問やご意見よろしくお願ひします。

それでは、本日の残りの時間は、新型コロナウイルス感染症について委員の皆様と意見交換を行って参りたいと思ひます。まずは、田上保健監より新型コロナウイルス感染症データ分析などについて、説明をお願ひしたいと思ひます。

イ 新型コロナウイルス感染症について意見交換 資料5

(中央東福祉保健所 田上)

【意見交換】

(会長)

ご説明ありがとうございます。保健所の負担っていうのはものすごいものがあって、それを押し会にも出てくださってることを、皆さんお分かりくださってると思ひますが、新型コロナウイルス感染症の動向や色んなことが共有できたと思ひます。

早期受診が絶対に必要なのに、嫌だから病院行きたくないという話が11月の協議でもありまして、受診控えてっていうのは本当にあったことだと思ひます。検査協力機関というだけで最初は恐れたり、色んなことを言われたりしながらも、少しずつ戻ってきていると思ひますけれども、嶺北にあってもやっぱりそういうことを言われることはあります。それでなかなか受診にならないということも実際としてありますし、医療従事者というだけでも敬遠される風潮もやっぱりあるんだなと。クラスターが発生した後は特に大変な苦勞をされたと思ひます。

そんな中にありまして、今日はせつかく委員の皆さんもお集まりになっていらっしゃるんで、それぞれの代表として皆様のご意見をいただきたくと思ひます。まずは医療機関代表としてA委員よりお願ひいたします。

(A委員)

当院の方は、まず患者さんは減ってます。電話再診を希望される方や、できるだけ間隔を開けていただきたいという方も多くいらっしゃいます。うちの病院も検査協力機関なので、まず熱があったら電話して来ていただくことや、外来の看護師さんがまず症状を聞いて、熱があれば動線を変える、というようなことをしています。外来の診察室や別の診察室のほかに、地下にテントを建てており、最初から症状があつて検査を希望する方や、熱や鼻水などの症状がある方はまず地下に行つていただいて、特別なシールドの中で装備をした看護師などで対応しておりますので、以前のように検査ができないということはないです。あとうちでは抗原検査もやっていますし、PCRの検査もやっています。すごく疑わしい方は県のほうでやっけていただけてるんですけども、県で全部やっけていただくわけにはいけないので。東京に送つておりますので、やっぱり2日か3日くらいかかるんですけども、検査ができないという状況ではないので、症状があればうちの病院とか近隣の病院とかに来ていただいて、積極的に検査を受けていただければいいんじゃないかと思ひます。以上です。

(会長)

次に福祉関係者の方で、何かご意見や質問のある方、お話したいという方がおられましたらお願いいたします。

(B 委員)

田上先生からは、前年もコロナが発症してからすぐにこのお話をして頂きました。住民の私たちはあふれる情報に翻弄されたり、確実なことを忘れて噂に惑わされたりということが既に地域では起き始めていますし、冷静さを保つのがとても難しい状況になっているのを感じます。

先生の今日の話をお聞きしまして、やはりこういった話を地域の方に確実にお届けしたいという思いがしました。先ほど A 委員からもおっしゃっていただきましたがきちんと医療、また検査が受けられること、各病院が体制をとっていただいていることを、住民に近い私たちが伝えていかなければいけないなということを改めて思った次第です。

コロナに関しましては、出不精になったり地域のモチベーションも下がり、集まることができないが故に、全体でやっつけようとするのが大変難しくなりました。個々が気をつけて健康管理などをしていくことの難しさを地域福祉では痛感しております。皆でやればやれるんですけど、一人でやるというのはなかなか難しいものがありますので、今後私たちも医療機関の方々がサポートしてくださることを期待しながら頑張っていきたいと思えます。中央東の職員の皆さんもぜひ頑張ってくださいたいと思えました。

もう一つは、それぞれのご説明の資料と、なにか動画があれば皆にこの話が聞かせるのになと思えます。ぜひ YouTube にあげて頂きたい。ありがとうございました。

(C 委員)

先生からワクチンの話を聞かせて頂いて、ワクチンへの期待感であったり、色んな思いがあると思うんですけど、住民の立場から一番思うのは、ワクチンがどれだけ効くか。変異種に効くかはさておいて、インフルエンザと同じようにワクチンを打ったら、大丈夫なんだと思う人が、ひょっとしたらいっぱいいるかもしれないなど。ほとんどの人がワクチンを打てばかかりにくくなるし、かかっても軽くなるだろうと思っているんですけど、逆に、打ったから堂々と色んな所に出て行っても人に移さないから自分は大丈夫なんだ、という間違っただけの考えを持つ人も増えてくるんじゃないかなという心配があります。

もう一つは、例えば、実際にこの嶺北で老老介護をされてたり、2人で生活してる方で、1人の方が陽性者となった場合には、もう1人の方が濃厚接触者となります。もう1人の方も陽性であれば問題ないですけども、自宅待機となったときに、PCRでマイナスだったその方が、誰かの介助や介護を受けなければならなくなった時、どこがこの嶺北地域で支えてくれますか。それじゃ足りないかもしれないし、ひょっとしたら排泄も介助しないとイケないかもしれない。そんな人たちに、家族以外で地域が支えるといっても、近所でもなかなか難しいです。じゃあ、よそから親族が来て入ってくれるのかといっても、1回PCRを受けてマイナスだったから大丈夫だと皆が思いながら本当に入れるのか、ということが色んなところで議論されていまして、中国やそれ以外の国々では、そういったところへエッセンシャルワーカーとかそんな人達が、食料やオムツ等の必要な物資を順番に配って回るような仕組みで、既に取り掛かっているとありましたし、日本でもそういったと

ころがやっているんでしょけど、この嶺北で誰がどうやってそれをしていくのかという取組がどう話し合われているのか、私は聞いたことがありません。なのでそこについて、地域としてどうやってその人達を支えていくのかということの本気で考えておかないと、実際、嶺北地域にポツポツ入ってきたときに、皆がパニックになってしまいます。生きていくための支援やサービスというところを、実際に2回目のPCR検査がマイナスだったらもう絶対大丈夫だということを住民に周知していかないと。それを受けてくださる事業所や保健所から情報発信して、住民への周知を徹底することで受け入れ体制に安心してもらい、こうなったら迎えても大丈夫、これだったら近所でも入って皆が助け合えるねっていう意識がちゃんと高まっていれば、もっと関わりやすいかと思います。

あともう一点、必ずしもお年寄りだけが対象になるとは限りませんので、小さい子どもが取り残されるケースなども踏まえて、幅広く対応していく。陽性者だけではなく、その家族とか、関わってる人たちを助けられるような地域づくりっていうのを、また皆で考えていかないかなって思っていますのでよろしくお願いします。

(会長)

ありがとうございました。先ほど田上保健監がおっしゃったように、ワクチンの主体が市町村であるということもありますので、各市町村からも住民への啓発とワクチンについてお話をいただきたいと思います。まずはD委員からお願いします。

(D委員)

年末にウェブ上で説明を頂いて、Q&Aがどんどん出てきて、町村としてはそのQ&Aを読みつつ、すぐにしないといけないということで、現場は大変なことになっています。厚労省では、承認がないとはっきりしたことは言えなくて、マスコミがどんどん先を言っちゃうもんだから、国民がものすごく熱い期待を寄せてたりすることにジレンマを感じつつ、現場はどうやって正しい情報を伝えていけばいいのかというところが、今後困ってくるのかなと思っています。

先ほどC委員が仰られたように、老老介護の場合で、1人が陽性の場合にもう1人の方が取り残されるということも当然出てくるでしょう。そういったことについても、社協さんとも話し合っていかなければならないことだと思いますし、全国で、高知県の場合に、調整中というのがよく出ます。その調整中の意味というのは、先ほど仰ったような老老介護で、介護者がいないから自宅でどうしようかといったところで調整しているという方もいらっしゃるということをお伺いしました。それも大変なことだと思います。併せて、福祉の立場でいうと、人権の問題もあります。やはりどこで出たというのをこちらからはっきりと教えるわけにはいかないので、職員はもちろん守秘義務を持っていますし、そういうことのせめぎ合いの中で、住民の方々を守っていかなければならないのと、人権の侵害にならないように啓発していかなければいけません。誰にも正解がないことを恐らくこれからやっていくんだと思います。ワクチン接種になると、誰もが経験したことのない、これが絶対ベストで正解っていうものがない中で、困りながらやっていくんでしょうけれども、皆さんで協力しながらやっていかなければならないなと思っています。以上です。

(会長)

ありがとうございました。続いてE委員をお願いします。

(E 委員)

先ほど D 委員や田上保健監が言われたように、国から県を経由して命令が次々と来ています。その中でも対応していかなければいけないことが日に日に変わるといふか、状況が変わっていく状態です。例えば、「医療従事者等」というところで消防署の救急の方々も入るということで関係者名簿の作成などがありました。私自身として今取り組もうとしているのは、この間、民生委員の会がありました。そういったところでの大まかなスケジュール感や情報提供を行っております。例えば、今話にあがったワクチンは 2 回接種だったと思いますが、そういったところもしっかりお伝えしながら準備をしていかねばならないと感じております。

あともう一つ言いますと、これは本当に、唯一 A 町村にとっての救いではないんですが、一緒に連携するという意味では、保健センターと医療機関が近くにあって、こういったところも連携をしっかりと取って、確実に住民にワクチン接種の普及に取り組めたらなと思っております。以上です。

(会長)

多分、各市町村の悩みも同じで、ほとんど意見も似たようなものが出ると思いますが、この点だけもうちょっと言いたいなっていうのがありましたら、F 委員からお願いいたします。

(F 委員)

これまで出た意見と同じように、どんどん毎日来る資料を基に、予算の積算から変わっており、議会への提出を必要とされる毎日に追われております。

C 委員からお話があったところが大変気になっておりまして、今後、感染拡大があった際に高齢者の方が PCR 検査に行くことの支援から、どのように入っていったらいいかというところに非常に不安材料がありますし、市町村でどこまで支援ができるかということにも不安があります。予防接種についても、町民の命を守るということで、町村としても全力を挙げてやっていきたいと考えております。

(会長)

ありがとうございました。最後に G 委員からお願いします。

(G 委員)

B 町村の住基人口は、現在〇〇人くらいで、町村外に居住されてる方も結構おりまして、集合ワクチン接種ということを見ると、本当に現実的ではないなというところがあります。近々、冷凍庫注文の締め切りがあるかと思うんですけど、冷凍庫が本当に要るのかといったところも医療機関と一緒に協議させて頂けたらと思っております。

自宅介護が必要とされる方が陽性となった場合、残された方をどうするかということについては、B 町村は早くから社協と話をしておりまして、支援ルームでお預かりすることへの検討や、介護度が重い方については、ご家族の連絡先を聞いてその方と話をしたりと、社協の方で早め早めに行動してくれております。今のところ、B 町村では陽性の方はおりませんので、今後どうなるかも分かりませんが、ぜひ保健所の皆様にもご協力いただきたいと思います。よろしく申し上げます。

(会長)

本当に未知のものに向かわなければいけないので、何の正解があるかも分からないと思うんですが、委員の皆様から、たくさんのご意見をいただききまして、ありがとうございました。最後に田上保健監より総括をよろしく申し上げます。

(中央東福祉保健所 田上)

それぞれにとっても素晴らしいご意見をいただきまして、ありがとうございます。

B委員が仰られたように、住民の皆様に分かりやすくご説明するということが本当に大事だと思います。また、生活支援がしっかり必要だというお話もとても大事なことだと思います。

現在は、コロナと戦っているわけなんですけど、もう一つ大きな「偏見」という敵があります。この偏見と戦わなければ、コロナ対策が上手くいかないという問題があり、そういう観点で住民向けの啓発をしっかりとお願いしたいと思っております。住民の方々に、正しい理解をしていただき、正しく恐れ、正しい行動をしていただくことが重要なんです。フレイルの話が先ほど出ましたけれども、香美市ではこれとは逆の話をしました。高齢者の皆さんにこれをしたら駄目だという話しかしていないので、これだったらこういう状態だったらできるんだよ、これなら大丈夫だよ、という情報もしっかり入れることも重要です。偏見をすると、結局、回り回って自分の首を絞めてしまうことになってしまいますし、地域ぐるみで皆で支え合おうという言葉を使いながら、一方で、感染すると途端にその人を排除する社会っていうのは全然違いますよね。この偏見との戦いについては、今日お集まりの皆様方に、ぜひ力をお借りしたいと思います。

濃厚接触者の話が出ましたが、今後、自宅療養しなくてはいけない人も出てきます。実際に、保健所で業務をしていると、例えば子どもさんの話も本当に悩ましい問題もありますし、要介護のお年寄りや犬猫の問題もあります。そういう課題をクリアするのに大きなハードルとなるのが偏見なんです。皆様方が想像する以上に、陽性者の方々は周囲に知られたくないという思いがとても強くて、それがなければ、私どもから市町村に支援要請の連絡をするなり、社協さんをお願いをして、といったことができます。当然私どもからご理解をいただけるよう努力はするんですけども、もう偏見が強くて、言ってくれるな、となるとなんともならないですよ。その状態でお伝えできないことに強いジレンマがございますが、ぜひご理解いただければと思います。

ワクチンについてですが、心配しているのは、政府、マスコミが非常に前のめりになりすぎているわけですね。先ほどお話がありましたように、ワクチンの安全性についての正しい情報を、冷静かつ分かりやすく提供していくということが極めて重要です。現在分かっている範囲で申し上げますと、インフルエンザのワクチンよりもはるかに痛いですし、打った後に腫れるような症状はインフルエンザよりもはるかに強く出ます。ですが、今のところは効果についてもインフルエンザよりもはるかに効果が高いとされています。ただ、重症化を予防する効果は明らかにありますが、感染を防止する効果があるかどうかは分かりませんし、無症状の人から感染させることへの防御ができるかどうかは分かりません。

ワクチンを打ったから私は大丈夫だからと言って、マスク無しで飲みに行かれると困りますので、このあたりを正確に情報提供していくことがすごく大事だと思います。医療従事者の方々も、接種するにあたって、今までと全く違うワクチンですので、ワクチンに関する正確な情報をしっかり入

手し、把握していただいて、それを接種される方に分かりやすく説明し、また質問に対して冷静に対応してお答えができるということも極めて重要だと思います。

たくさんやらなければいけないことがある中で、私が申し上げているようなことをテレビやマスコミ等を通じて国民に分かりやすく提供をすべきなんですが、感染者の数字で不安を煽るばかりのマスコミ報道に、忸怩たる思いを持っております。大事なのは正しい情報をわかりやすく提供していくことで、マスコミを通じて広く周知するのが一つの方法です。もう一つは草の根の周知です。草の根の周知については、皆様方が非常に強いこれまでの実績を持っておられますので、是非ともお力添えをお願いしたいと思います。

コロナの感染を火事に例えてみたら分かりやすいかと思います。保健所が今やっているのは、ボヤを見つけてあそこで火が煙が立ってるから消しに行けという「初期消防隊」です。ワクチンは、燃えないようにする、ということでもう一つは火の用心が重要です。火の用心は国民の一人一人にしっかり取り組んでいただかなければいけないのですが、初期消火のところで精一杯で、その部分に私どもが手を出すゆとりはありません。

新型インフルエンザの対策の中でも、この普及啓発については市町村の役割ということが言われておりますし、先ほどから出てきております生活支援も市町村の役割だと明記されております。到底、市町村行政だけでできることではありませんので、皆様方と一緒に、力を合わせてやっていくことが重要であると思います。これまでずっと議論している地域包括ケア、皆で力を合わせてと言っていることをコロナでもやらなければならない。逆にコロナが去ったときには、地域包括ケアもちゃんとできるよねということかなと思います。

非常に今の対策は偏ったところだけに進んでおりますので、今日お集まりの皆様方や、幅広い関係者が力を合わせて取り組んでいくことが大事なんだということをご理解いただければありがたいと思います。どうもありがとうございました。

4 その他

- ・来年度は委員改選年度であることを伝達

5 閉会